第 19 回（2024 年度第 3 回）環境振動設計検討小委員会　議事録

Ａ．日時　2024 年 9 月 25 日（火）　17:00～19:00

Ｂ．開催方法　会議室（302 号室）とオンライン（zoom）併用

Ｃ．出席者（敬称略）

原田主査	○	相原	w	朝日	w	小田島		片岡	
西川	w	濱本	○	東田		山中	w	吉松	○
森	w	崔(記録)	○						

Ｄ．提出資料　（学会ストレージに格納）

24-3-0　第 19 回環境振動設計検討小委員会 議題
24-3-1　第 18 回環境振動設計検討小委員会 議事録(案)
24-3-2　自然振動源 WG の資料
24-3-3　内部振動源の設計例
24-3-4　外部振動源の設計例
24-3-5　外部振動源 4 章メモ書き
24-3-6　小委員会廃止申請書
24-3-7　小委員会設置申請書
24-3-8　2025 年度活動計画案

Ｅ．議事内容

１．記事録(案)の確認（資料 No.24-3-1）

・第 18 回（2024 年度第 2 回）の議事録(案)は一部修正して承認された．

２．各 WG の進捗報告（資料 No.24-3-2）

2.1 自然振動源 WG

・設計例の内容が紹介された．主な質疑応答/意見は以下の通り．

[質疑応答/意見]

・今回のシンポジウムは評価と設計との話し合いなので，設計小委員会としては，評価規準を活用した設計を進める中で評価規準の様々な課題がクリアに見えてきたということと，今後もその課題解決に向けて継続的に取り組んでいくということを示す必要がある．評価規準と設計の手引きが出版され，次回改定まで半ばぐらいなので，現時点で分かったことを示し，今後より良い方向に変えていくというスタンスで良いと思う．

2.2 内部人工振動源 WG（資料 No.24-3-3）

・設計例作成の方針が紹介された．主な質疑応答/意見は以下の通り．

[質疑応答/意見]

・デベロッパーを対象にした設計例の場合，大手設計事務所としての現実を表現した事例ではあるが，建築学会が対象にする環境振動の建築主は居住者であると思われる．

→居住者のように，建築の発注に慣れていない建築主に対する設計例も考えていたが，新規準への移行があまり進まない理由は，大手デベロッパーへ新規準が浸透されていないことが要因だと思われる．新規準を使用することに対して足踏みをする人にとっては，このような設計例が役に立つと思っている．

・「建築の発注に慣れていない建築主に対する設計例」より先に，「2004 年版の評価指針が定着している建築主に対する設計例」を示した方が良いということか．

→新規準や設計の手引きが広く使用されるためには，まずは大手デベロッパーへ新規準が浸透することが大事だと思う．このため，今回の設計例ではデベロッパーを対象にした設計例で進めるのが良いと思っている．

2.3 外部人工振動源 WG（資料 No.24-3-4，No.24-3-5）

・設計例の内容が紹介された．主な質疑応答/意見は以下の通り．

[質疑応答/意見]

・外部振動源の場合，入力をどのように決めたのかということが一番の問題になると思われる．設計時の建物の振動モデルに対して入力をどのように与えたのか，説明して頂きたい．

→交通振動に対する敷地周辺地盤の振動計測データから，スペクトルモーダル法より最大加速度時刻歴の入力スペクトルを算定し，距離減衰と入力損失効果を考慮して解析モデルへ入力している．応答スペクトルは，解析モデルとして建物と床をそれぞれ 1 質点系にモデル化して求めた伝達関数に入力スペクトルを乗じて求めている．

３．小委員会活動計画等について（資料 No.24-3-6～8）

・2024 年度環境振動設計検討小委員会の廃止申請書，2025 年度環境振動設計検討小委員会の設置申請書，2025 年度環境振動設計検討小委員会の活動計画書が示された．

・2025 年度の小委員会の主査として吉松委員，幹事として崔委員（継続）が選任された．また，新たな委員として大原氏の参加が承認された．

４．連絡事項・その他

・各 WG で協力してシンポジウムの原稿作成を進めること．

〇次回：2023 年 11 月下旬で調整する

開始時刻は 15:00，16:00，17:00 のいずれかとする

対面（建築学会会議室）とオンライン併用による開催

以上